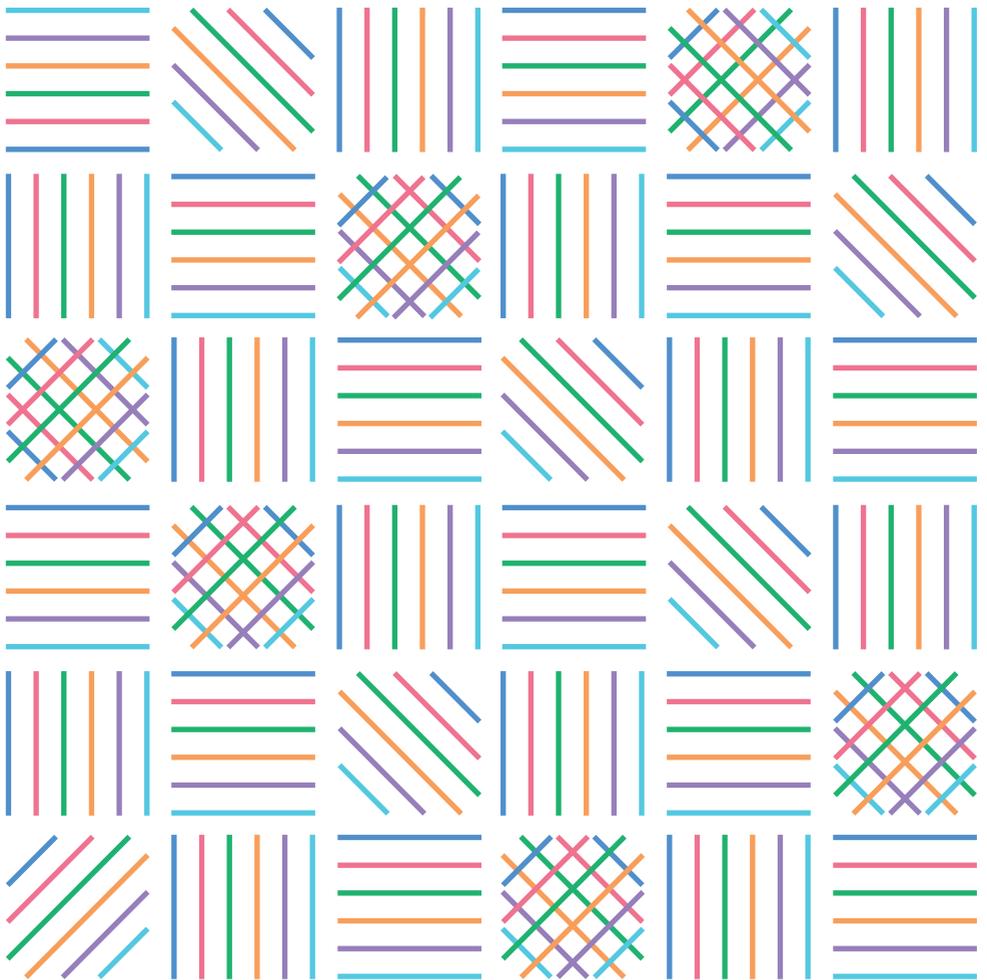


愛知県立大学

外国語学部 ハンドブック



学部長あいさつ

外国語学部は、国立2大学、公立3大学、そして数十に及ぶ私立大学に置かれている（2018年現在）、日本では歴史ある学部の一つです。外国語学部の基本的な教育目標は、高度な外国語運用能力を有する職業人や教養人を送り出すことにありと考えられてきました。今も、その原則に変わりはありません。

しかし、最近では、英語教育が小学校まで導入される一方で、AI（人工知能）による自動翻訳の技術が日々進歩しています。そうしたなか、大学で外国語を専門的に学ぶことの積極的な意義は何でしょうか。

グローバル化の進行とともに、世界的にリンガ・フランカ（共通語）として英語を話す人が増えました。英語が使えるグローバル・コミュニティに参加するために英語力に磨きをかけることは、今日でも、外国語学部の学修目標の一つといえるでしょう。ですが、それだけではありません。

世界の文化的な多様性を知り、異なる価値観の間を繋ぐには、英語とともに他の外国語を話せることが大きな意味をもちます。言語は、コミュニケーションの道具であると同時に、コミュニケーションの中身や背景を表すものでもあるからです。みなさんなら、何語を選ぶでしょうか。

人文・社会科学分野のほとんどの領域をカバーし、言語を切り口として、自由に自分の関心分野を深めることができるのも、外国語学部の大きな特徴の一つです。専門分野の細分化が顕著な現代にあっては、学びの自由な選択を自己の成長プロセスに重ねて考えられる場所は、けっして多くありません。

世界の主要言語の多くが修得でき、学びながら自分の専門性を築くことができる。愛知県立大学外国語学部は、そうした自由な人づくりと啓発の場であろうと努力しています。



愛知県立大学外国語学部
学部長
竹中克行

目次

愛知県立大学外国語学部 4つの特色	2
留学	4

● 英米学科	8
--------	---

● ヨーロッパ学科	
-----------	--

● フランス語圏専攻	14
------------	----

● スペイン語圏専攻	20
------------	----

● ドイツ語圏専攻	26
-----------	----

● 中国学科	32
--------	----

● 国際関係学科	38
----------	----

多言語学習センター iCoToBa	44
-------------------	----

大学院国際文化研究科	47
------------	----

英語高度専門職業人コース	47
--------------	----

通訳翻訳研究所	48
---------	----

多文化共生研究所	49
----------	----

COLUMN

他大学との学科・ゼミ単位の交流	19
-----------------	----

医療分野ポルトガル語・スペイン語	25
------------------	----

言語圏を越えた学び	31
アジア・新興国プログラム／グローバル実践教育プログラム	

地域ものづくり学生共同プロジェクト	37
-------------------	----

取得できる資格	43
教員免許／日本語教員課程	

1

世界の主要言語を複数マスターする

本学の外国語学部は、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の5言語を専攻外国語としています。英語のみならず、世界の主要言語の多くについて、少人数クラスで高度な外国語運用能力を有する人材を育成していることは、本学部の大きな特徴です。近年は、たんに「外国語を学ぶ」のみならず、「外国語で学ぶ専門科目」の充実に向けた取り組みを進めています。

また、専攻言語を補完するものとして、教養教育での外国語学修があります。英語を専攻する学生は英語以外の外国語、英語以外の言語を専攻する学生は原則として英語を教養教育で学びます。とくに教養の英語教育では、ネイティブの担当を含む英語の授業を2年間受け、さらにステップアップを望む学生は、英語のみで行う時事英語や日本紹介などの科目にチャレンジできます。

2

外国語運用能力をいかして専門的に学ぶ

本学の外国語学部では、外国語によるコミュニケーション能力をいかすという観点で専門教育の充実をはかっています。3年次からは、言語・文化の理解を掘り下げるコース、地域・社会の働きへの理解を深めるコース、通訳・翻訳の専門的スキルを得るコースなど、方向性が異なるいくつかの履修モデルから一つを選んで、専門的な学びを深めます。

いずれのコースでも、学部で養った問題関心をさらに深めたい人は、大学院国際文化研究科に進学することができます。本学では、博士前期課程および博士後期課程の充実した大学院教育を提供しています。また、外国語学部併設された通訳翻訳研究所では、通訳・翻訳の理論と実践を研究し、その成果を本学学生はもとより、卒業生や一般市民に還元することをめざしています。

3

グローバル社会のなかに身を置く

本学の外国語学部では、学生の多くが在学中に留学を経験しています。3人に1人くらいが半年または1年の長期留学に挑戦し、夏休みなどを利用した短期留学を合わせれば、大部分の学生が在学中に海外生活を経験すると言ってよいでしょう。本学は、約60の海外大学との学術交流協定を有し、交換留学制度とともに、多様なショートプログラムを提供しています。

留学は、ふだんの学修で身につけたグローバルな感覚を、現場での体験を通して磨き上げるための貴重な機会です。ぜひチャレンジしてください。さらに本学部では、台湾の静宜大学とのダブルディグリー協定（両大学に所属し、双方から学士号を授与される制度）をはじめ、教育の国際通用性向上のための取り組みを進めています。

4

専門にプラスして学びを広げる

本学の外国語学部では、全学科・専攻対象の副専攻にあたるプログラムとして、国際政治・経済や国際協力を通じた日本・愛知と世界の繋がりに焦点を当てた「アジア・新興国プログラム」を設置しています。また全学の取組みとしては、主体的な異文化対応能力を備えたグローバル人材の育成をめざして、「グローバル実践教育プログラム」を設置しています。

その他、日本語教員課程では、日本語の教え方はもちろんのこと、地域の日本語教室での実習を通して、さまざまな多言語・多文化状況で必要となるコミュニケーション能力を身につけることができます。また、愛知県を中心とする地元企業と協働しながら学ぶ「地域ものづくり学生共同プロジェクト」など、地域社会と連携した教育の取り組みも進めています。

本学の外国語学部が推進している留学には、自由な選択と主体的な学びという大きな特徴があります。これは、あらかじめ用意されたパッケージから選択するのではなく、行き先や学び方についてよく考え、一人ひとりがつくり上げる留学を意味します。先輩や教員、国際交流室スタッフからアドバイスをもらって、ぜひ自分に合った留学ライフを見つけましょう。

本学は、60もの海外協定大学を有するだけでなく、交換留学や奨学金支給の機会を豊富に提供しています。それらをぜひ活用してください。長期留学が難しい人は、数週間から1か月のショートプログラムに参加してもよいでしょう。さらに、協定大学とは別に、自分の行きたい大学を見つけ出して申請する認定留学の仕組みもあります。

留学先の大学で無事合格した科目については、帰国後、本学で単位認定を申請することができます。外国語学部の留学制度では、留学先での学びを県大での学修を深める機会として活用することはもちろん、県大でのふだんの学びとは異なった分野に挑戦することも可能です。学生のみなさんがそうした自由な空気なかで、主体的な学びを実現することを期待します。

外国語学部生の留学 fact sheet

(対象期間：2017年後期～2018年前期)

交換留学	派遣留学	ショートプログラム	認定留学	単位認定を受けた学生
63名	10名	101名	39名	180名



協定大学への交換・派遣留学

	大学名	国・地域名	募集人数
英語圏	ニューヨーク州立大学フレドニア校	アメリカ	2名
	カリフォルニア州立大学チャンネルアイランド校	アメリカ	2名
	ニューカッスル大学	イギリス	3名
	セントラルランカシャー大学	イギリス	2名
	メモリアル大学学部コース	カナダ	3名
	ウーロンゴン大学	オーストラリア	1名
	テイラーズ大学	マレーシア	2名
	アシュランド大学	アメリカ	若干名
	アリゾナ州立大学	アメリカ	若干名
	オッターベイン大学	アメリカ	10名
	プレスビテリアン大学	アメリカ	若干名
	メモリアル大学 IEBP-G プログラム	カナダ	3名
	ディーキン大学	オーストラリア	若干名
スインバーン工科大学スインバーンカレッジ	オーストラリア	若干名	
西オーストラリア大学	オーストラリア	若干名	
ウーロンゴン大学	オーストラリア	若干名	
フランス語圏	リール大学	フランス	5名・3名
	トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	フランス	2名
	ロレーヌ大学メッスキャンパス	フランス	2名
	ブリュッセル自由大学	ベルギー	2名
	ケベック大学モントリオール校	カナダ	2名
スペイン語圏	ア・コルーニャ大学	スペイン	2名
	アリカンテ大学	スペイン	2名
	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン	2名
	CEU サン・パブロ大学	スペイン	2名
	ラス・アメリカス大学	メキシコ	2名
	プエブラ自治栄誉大学	メキシコ	2名
	メキシコ国立自治大学	メキシコ	2名
	グアダラハラ大学	メキシコ	2名
	ペルー・カトリカ大学	ペルー	最大4名
	ブンペウ・ファブラ大学	スペイン	若干名

協定大学への交換・派遣留学

	大学名	国・地域名	募集人数
ドイツ語圏	ケルン大学	ドイツ	2名
	ライプツィヒ大学	ドイツ	3名
	テュービンゲン大学	ドイツ	2名
	リューネブルク大学	ドイツ	2名
中国語圏	四川師範大学	中国	2名程度
	東呉大学	台湾	2名
	静宜大学	台湾	2名・1名
	南京師範大学	中国	若干名
その他の国・地域	サンパウロ大学	ブラジル	2名
	ミーニョ大学	ポルトガル	2名
	清州大学	韓国	2～3名
	湖南大学	韓国	2名
	韓国外国語大学	韓国	2名
	シベリア連邦大学	ロシア	2名
	UMAP アジア太平洋大学交流機構	アジア太平洋地域	2名
ガジャマダ大学	インドネシア	若干名	

協定大学でのショートプログラム

大学名	国・地域名	募集人数
ニューヨーク州立大学フレドニア校	アメリカ	10名
アリゾナ州立大学	アメリカ	制限なし
アシュランド大学	アメリカ	制限なし
ポートランド州立大学	アメリカ	制限なし
セントラルランカシャー大学	イギリス	制限なし
ディーキン大学	オーストラリア	制限なし
スインバーン工科大学スインバーンカレッジ	オーストラリア	制限なし
オーストラリアンカソリック大学	オーストラリア	20名
フランス政府留学局	フランス	制限なし
ラス・アメリカス大学	メキシコ	15名
サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン	制限なし
ミュンスター大学附属語学学校	ドイツ	30名
華東師範大学	中国	20名程度
ミーニョ大学	ポルトガル	若干名
シベリア連邦大学	ロシア	若干名
UMAP アジア太平洋大学交流機構	アジア太平洋地域	制限なし

静宜大学(台湾)とのダブルディグリー・プログラム

本学は、台湾の静宜大学との間で、ダブルディグリー協定を結んでいます。このプログラムを履修する県大生は、大学生活後半の2年間を静宜大学で過ごします。本学で修得した科目を静宜大学の科目、静宜大学で学んだ科目を本学の科目として認めてもらうことで、卒業時には、両大学の学士号（本学：外国研究学士、静宜大学：台湾文学学士）が授与されます。反対に、静宜大学から本ダブルディグリー・プログラムに参加する学生は、3～4年次を県大で学びます。

静宜大学とのダブルディグリー・プログラムを履修することができるのは、本学中国学科の学生と静宜大学人文社会科学部台湾文学学科の学生です。通常の交換留学に比べて多くの参加要件が求められますが、達成できたときの成果もひとしおです。台湾に関心のある人は、ぜひチャレンジしてください。



英米学科

Department of British and American Studies



英米学科は、1966年の開設以来、実践的英語力を身につけた、英語圏の文化・社会に対する造詣の深い人材を育成し、多方面で活躍する卒業生を輩出してきました。2014年からは、この伝統を保ちつつ、高度情報化時代に対応できるよう、コース制を導入しました。

現在、英米学科では、2年次以降に、「言語」、「文化」、「社会」、そして「EIC (English for Intercultural Communication)」の4つのコースにわかれることによって、それぞれ英米を中心とする英語圏の社会、政治、経済、歴史、文化、言語、およびコミュニケーションについて、専門的かつ系統的に学ぶことが可能になっています。「EICコース」に関しては、より高度な英語力を身につけたグローバル人材を育成します。このコースでは、同時通訳、逐次通訳といった通訳演習、英語でのディベートやプレゼンテーション能力を高めるための授業に加え、研究各論の講義も英語でおこなわれ、日本にいながらにして擬似留学環境を体験できます。

4年間で習得できること

- ✓ 専門的な内容にも対処できる、高度な英語力
(卒業時の到達目標 TOEIC Listening & Reading Test 800点以上)
- ✓ 英語圏の文化・社会に対する深い造詣
- ✓ 通訳、翻訳、ビジネス英語といった実践的英語力



Communicative English



English Phonetics



Computer Assisted Language Learning (CALL)



Academic Writing

卒業生の声



2010年度卒業
伊木ロドリゴさん
豊橋市立東陽中学校教諭

県大でのすべての経験がわたしの人生を変えてくれました。空き時間に仲間と交わした熱い会話、オール英語で行われるディスカッションの授業、相談すれば真摯に向き合ってくださる先生方の存在、学習に最適な環境こそ県大を特別な学び舎としていると思います。大学は「遊ぶ場」ではなく、たくさんのお会いを通して、自分の視野を広げ、人として成長させてくれる場所だと私は思います。県大は最高の場所です。ただ、自分の大学生時代を最高のものにするかどうかは自分次第です。無駄にせず、最高の4年間にしてください。



2016年度卒業
伊藤有希さん
CKD (株)

愛知県小牧市にある機械部品メーカーで、主に製品の輸出を担当しています。世界中から注文書を受け取り、伝票を発行し出荷、最後に輸出船積書類を作成して貨物とともに通関業者に引き渡すまでを管理しています。お客様の希望に添えるよう、輸出相手国の現地子会社のスタッフと英語でコミュニケーションを図りながら調整したり、海外からお客様が訪問されたときには自身の通訳技術を活用したりしています。外国語学部では言語力と幅広い教養を身につけることができました。私が貿易の仕組みを知ったのも、その一つです。日本国内だけではなく、他国との関係性など視点を変えて日本を見つめることができている。グローバル化が急速に進む中、まだ希望する職業が定まっていない人も、外国語学部であればどのような組織でも役立つ知識とスキルを身につけることができると思います。

	英語を身につける	英語以外の外国語を学ぶ	イギリス・アメリカの文化・社会及び英語について専門的に学ぶ	専門分野について調べ、発表し、討論する	幅広い知識や教養を身につける
1年	Communicative English 週3回 Grammar & Basic Writing English Phonetics	外国語科目Ⅰ (以下から選択) ●フランス語 ●スペイン語 ●ドイツ語 ●中国語 ●ロシア語 ●ポルトガル語 ●韓国朝鮮語 ●日本語(留学生対象)	研究概論 ●イギリスの社会 ●アメリカの社会 ●イギリスの文学・文化 ●アメリカの文学・文化 ●英語学	海外協定大学修得科目 基礎演習Ⅰ ●イギリスの社会 ●アメリカの社会 ●イギリスの文学・文化 ●アメリカの文学・文化 ●英語学 ●英語教育学	言語研究入門 文学・文化研究入門 政治・経済研究入門 歴史・社会研究入門
	Communicative English II 週2回 Academic Writing I Research & Discussion I Presentation* Interpreting I* 教科教育法(英語)	English for Specific Purposes ●Speech & Performance ●ビジネス英語 ●時事英語 ●科学技術英語 ●翻訳技法 ●通訳技法	外国語科目Ⅱ (韓国朝鮮語を除きⅠと同じ) ラテン語 ギリシア語 諸地域言語(ヨーロッパ諸語) 諸地域言語(アジア諸語) 2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話(年度毎に変更)		
2年	Communicative English III Academic Writing II Research & Discussion II Debate* Interpreting II* 教科教育法(英語)		研究各論 ●現代英語の特質 ●イギリスの政治・外交 ●イギリスの社会・思想 ●アメリカの政治・外交 ●アメリカの社会・経済 ●イギリスの文学・文化 ●アメリカの文学・文化 ●英米の映画・視聴覚文化 ●英語圏の文化批評 ●英語学研究Ⅰ(コア) ●英語学研究Ⅱ(発展) ●英語教育学 ●Communication Studies ●Comparative Studies【Culture and Literature】 ●Comparative Studies【Language】 ●Comparative Studies【International Relations】	研究演習 ●イギリスの社会 ●アメリカの社会 ●イギリスの文学・文化 ●アメリカの文学・文化 ●英語学 ●英語教育学 ●コミュニケーション学*	アジア・新興国研究各論 ●アジア・新興国論 ●日本経済と新興国 ●ASEAN研究 ●イスラーム圏研究 ●ロシア研究 ●南北アメリカ国際関係 ●東アジア社会 ●アフリカ研究
	Academic Writing III Research & Discussion III			卒業論文	



Interpreting I



研究各論(イギリスの歴史)

* のついている科目はEICコースのみ

英米学科の専任教員

氏名	専門分野
阿南東也 <i>ANAMI, Haruya</i>	政治学、政治過程論、アメリカ政治外交。現在のアメリカの国内政治と外交政策過程。911テロ事件後世界の中でのアメリカの位置づけ。国内世論動向、選挙分析。大統領制の変化。
池田 周 <i>IKEDA, Chika</i>	英語教育学、応用言語学。特にリーディング指導、および第二言語、外国語としての英語リテラシー（読み書き技能）の発達、小学校英語教育において初期リテラシーを効果的に指導する方法に関心をもつ。
石原 覚 <i>ISHIHARA, Satoru</i>	中世のイギリスのことは、特に紀元1100年ころまでの英語——古英語 (Old English) と呼ばれる——を研究対象とする。具体的には、聖書のことばがどのように古英語で言い表されているかに関心を持つ。
榎本 洋 <i>ENOMOTO, Hiroshi</i>	ヴィクトリア朝の小説家ディケンズをディック・ウィットントンなどの民間伝承を軸に、主人公の財産継承と世俗的成功の物語を研究。功利主義的イデオロギー、出版事情（都市のスケッチ文学など）、家庭小説の形成と崩壊等の問題も含む。
大森裕實 <i>OHMORI, Yuujitsu</i>	国際化時代の英語音声教授法研究。印欧語比較文法研究（時制と法の立体的考察）。歴史英語学研究（fight with が fight against と同じ意味なのはなぜ?）。日英対照言語学（英語完了形が日本語テイルに対応する理由）。
奥田泰広 <i>OKUDA, Yasubiro</i>	イギリス政治・外交・現代史（とくに安全保障論やインテリジェンス問題）を専門とする。近年はチャーチルやサッチャーに関する政治的リーダーシップ論に着目している。
梶原克教 <i>KAJIHARA, Katsunori</i>	現代の英語圏文学・文化、映画や音楽などの視聴覚文化。アイルランドやカリブといったポストコロニアル文化と、その環大西洋的な流れ。
木全 滋 <i>KIMATA, Shigeru</i>	19世紀アメリカ文学とアメリカおよびヨーロッパの社会、思想、文化との関係。20世紀アメリカの詩。
熊谷吉治 <i>KUMAGAI, Yoshitaru</i>	英語学（①英語コミュニケーションにおいて、新しい情報は文のどの位置に現れ、どのように発音されるのか、②英語の単語にはどのような音象徴性が見られるか）。
袖川裕美 <i>SODEKAWA, Hiromi</i>	通訳技能・通訳論。放送通訳 (NHK や BBC) や会議通訳の経験を基に、日本語と英語による優れたコミュニケーションの実践と研究。
瀧内 陽 <i>TAKIUCHI, Haru</i>	20世紀後半のイギリス児童文学、特に労働者階級や黒人・アジア系の児童文学を中心に研究している。
中村不二夫 <i>NAKAMURA, Fujio</i>	特に1500-1950年の、英語の文法と語彙の歴史の研究。その成果を、過去21回、ヨーロッパの国際学会で発表してきた。英和辞書の執筆も仕事の一つ。

氏名	専門分野
久田由佳子 <i>HISADA, Yukako</i>	18世紀末から19世紀前半のアメリカの歴史（アメリカ独立革命と南北戦争の間に挟まれた時代の研究）。とくに女性や子どもを含む、普通の人々の生活や労働、奴隷制廃止運動など。
広瀬恵子 <i>HIROSE, Keiko</i>	外国語である英語をどのように学ぶのか、また教えたらいのかを研究する英語教育学と応用言語学。研究テーマにしているのは、特に英語で書くこと (second language writing) に関すること。
正木慶介 <i>MASAKI, Keisuke</i>	専門は近代イギリス政治史。貴族などエリートのみならず広く市民がどのように政治参加していたのかについて、選挙、メディア、アソシエーションなどの観点から研究している。
三原 穂 <i>MIHARA, Minoru</i>	専門は、18世紀の英文学であるが、シェイクスピアからロマン派の詩人までを守備範囲としている。
村山瑞穂 <i>MURAYAMA, Mizubo</i>	アジア系アメリカ人（アジアにルーツをもつアメリカ人）の文学・文化活動を中心に、アメリカ文学・文化について、日米比較の視点も交えて研究。
森田久司 <i>MORITA, Hisashi</i>	知能・国籍・民族・性別等に関わらず、誰でも比較的短期間でことばを獲得できるのは、生まれながらにして文法を持っているから!? それはどのような文法なのかを研究。
デミエン・オオカドゴーフ <i>OKADO-GOUGH, Damien</i>	第二言語学習における「書く」ことの役割、日本人学生の英語の発音、コーパスに基づく批評言説の分析などについて研究しています。
クリストファー・ロバート・ヘイスティングス <i>HASTINGS, Christopher Robert</i>	応用言語学、特に、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング、第二言語習得、コンピュータを使った語学学習などを研究している。
ロサ・オムラティグ <i>Ó MUIREARTAIGH, Rossa</i>	日本の現代思想（特に鈴木大拙、西田幾多郎、田辺元を含めた京都学派）、翻訳研究、アカデミック英語 (English for Academic Purposes)。
ワキーン・エマニュエル・カステラーノ <i>CASTELLANO, Joachin Emmanuel</i>	英語教育、語学学習支援用コンピュータシステム、メディア・リテラシー、プレゼンテーション能力、ビジネス英語。



フランスは、中世以来、ヨーロッパの文化・文明の中心の一つです。現在も、ドイツと共にEUを牽引しながら、世界第5位の経済大国として、国際社会の発展に寄与し続けています。そしてフランス語は、フランス本国だけでなく、ベルギー、スイス、カナダ、アフリカ諸国等の公用語であり、国連を始めとする多くの国際機関や、ファッション、スポーツ等の多彩な分野で、共通語として用いられています。特に、今後の世界で政治的・経済的に最も重要な存在になるであろうアフリカ諸国においては、実は英語以上に、広く用いられている言語なのです。フランスと日本の関係を目を転じれば、2017年のフランスの対日直接投資残高は、アメリカ、オランダに次いで世界第3位です。逆に日系企業の約490社が、フランスに約740拠点を設置しており、そのうち愛知県内の企業は37社、57拠点にも上ります。

フランス語圏専攻では、少人数クラスでフランス語のエキスパートを目指します。同時に、「言語・文化コース」と「社会コース」で専門的にフランス語圏の文化・社会を学び、国際的な舞台上で活躍し、かつ地域社会にも貢献する、「真のグローバル人材」を養成します。

4年間で習得できること

- ✓ フランス語の高度な運用能力
(卒業時の到達目標 実用フランス語技能検定試験 準1級以上)
- ✓ フランス文化・社会についての深い理解
- ✓ アフリカ等の他のフランス語圏に関する知識



2012年度卒業
加藤健太郎さん
Washington CORE LLC

県大でフランス語を学んだあと、ベルギーの大学院で修士号を取得し、現在はワシントンDCのコンサルティングファームで働いています。海外に出るきっかけとなったのは県大在学中のフランス留学でした。フランスでの生活と様々な国籍のクラスメイトとの交流はとても貴重な経験になりました。英語が話せることが常識となりつつある今日、英語に加えてもうひとつ外国語を話せることはとても大きなアドバンテージとなることを、アメリカで働くなかで日々感じています。私はフランス語を選び、海外を知ることができて良かったと、心から思います。



2016年度卒業
林 拓弥さん
㈱日立ソリューションズ

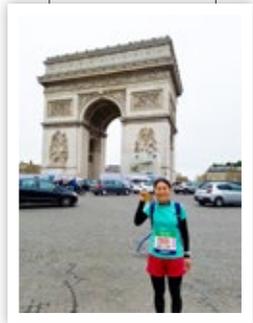
「グローバルに活躍している企業で働く」という目標を持って就職活動をしていました。そのきっかけは、大学在学中に行ったフランス留学で、フランスでしか出来ない経験をする中で、国際色豊かな考え方に触れました。こうして、「多様性」や「グローバル」に興味・関心を持ち、日立ソリューションズへ入社を決めました。当社は、海外に多くの拠点、また幅広い事業分野を持っています。その中で、私は人事として社内からグローバルな視点で、活躍していきたいと思っています。特に、海外のグループ会社に働きかけたり、出向したりするのが今の夢です。



フランス語圏専攻のカリキュラム



	フランス語を身につける	フランス語以外の外国語を学ぶ	フランス語圏の文化・社会について専門的に学ぶ	専門分野について調べ、発表し、討論する	ヨーロッパ共通の問題を様々な視点から学ぶ	幅広い知識や教養を身につける		
1年	フランス語 I ●基礎 ●文法 ●応用 ●会話	外国語科目 I (以下から選択) ●英語 ●ロシア語 ●スペイン語 ●ポルトガル語 ●ドイツ語 ●韓国朝鮮語 ●中国語 ●日本語 (留学生対象)	研究概論 ●フランス語圏社会 ●フランス語学 ●フランス語圏文学・文化	海外協定大学修得科目 基礎演習 I ●フランス語圏社会 ●フランス語圏文化		言語研究入門 文学・文化研究入門 政治・経済研究入門 歴史・社会研究入門		
	2年	フランス語 II ●文法●応用●会話●作文 基礎講読 ●フランス語圏社会 ●フランス語圏文化	外国語科目 II (韓国朝鮮語を除き I と同じ) ラテン語 ギリシア語 諸地域言語 (ヨーロッパ諸語) 諸地域言語 (アジア諸語) 2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話 (年度毎に変更)					
3年	フランス語 III ●会話 ●作文 教科教育法 ●フランス語	上級講読 ●フランス語圏歴史・社会 ●フランス語圏政治・経済 ●フランス語学 ●フランス語圏文学・文化 上級フランス語 ●時事 ●翻訳・通訳	外国語科目 英語 ●World News ●Issues of Our Times ●Introducing Japan ●Expressing Your Ideas	研究演習 ●フランス語学 ●フランス語圏文学・文化 ●フランス語圏歴史・社会 ●フランス語圏政治・経済 ヨーロッパ共通研究演習	ヨーロッパ共通研究各論 ●ヨーロッパ中世・近世史 ●民主主義と分権化 ●EU 経済論 ●地域と国家 ●地域・都市再生論 ●ヨーロッパ統合論 ●多言語社会研究 ●メディアと人権 ●ヨーロッパ研究特殊講義	卒業論文		
	4年	フランス語 IV ●会話 ●作文						



フランス語圏専攻の専任教員

氏名	専門分野
天野知恵子 <i>AMANO, Chieko</i>	フランスにおける学校の歴史(17-19世紀の初等・中等教育)。 フランス近現代史(17-20世紀)における家族像・子ども像。 フランス革命期の家族と子どもをめぐる諸問題。
伊藤滋夫 <i>ITO, Shigeo</i>	17-18世紀のフランスの歴史。「絶対王政」期の行政・財政金融制度、公債制度。財務官僚や金融業者、金利生活者の社会史的研究。道路・運河建設などの公共事業の歴史。南仏ラングドック地方、都市モンペリエの歴史。
岸本聖子 <i>KISHIMOTO, Seiko</i>	フランス語学(フランス語がどのように事柄を表しているのかを、人間が普遍的にもつ認知能力と関連づけて紐解く)。 フランス語教育(評価、学習者中心教育)。
佐藤久美子 <i>SATO, Kumiko</i>	フランス語で書かれた文学作品の研究。人間のさまざまな営み(例えば、恋愛や倫理的行動など)に関する、この美しく、明晰で繊細な言語の豊かな表現方法を検討し、人間についての理解を深める。
白谷 望 <i>SHIRATANI, Nozomi</i>	アラブ世界の政治や社会とイスラームの関係。 モロッコを中心とした北アフリカ諸国の政治・経済。
中田晋自 <i>NAKATA, Shinji</i>	フランス都市政治の研究。フランスの「近隣民主主義」をキーワードとして、都市自治体における居住者を主体とした熟議と参加の民主主義について、その実現可能性を探究。
長沼圭一 <i>NAGANUMA, Keiichi</i>	フランス語の文法・言語学。現代フランス語における冠詞(定冠詞・不定冠詞・無冠詞)の使い分けによる意味解釈の違い。 フランス語と他言語とのさまざまな言語現象についての比較。
原 潮巳 <i>HARA, Sbiomi</i>	19世紀末のフランスの様々な文化現象(文学、美術、音楽、ファッション等)。 フランス本国以外のフランス語圏の文学・文化。 日本文化の受容「ジャポニスム」関連。
野内美子 <i>YANAI, Haruko</i>	フランスに焦点を据えたEU経済研究。 EU統合の発展に伴うフランスの経済政策の変化、EUにおけるフランスの政治経済的役割、ユーロやEU財政問題など。
モルガン・ダレン <i>DALIN, Morgan</i>	Bonjour! 多言語異文化コミュニケーションが専門です。これからの時代、いろんな国籍や文化を持つ人と接する機会が増えるでしょう。フランス語は世界で29ヶ国の公用語です。一緒にフランス語を始めてみませんか?
フランク・モラルール <i>MOLLARD, Franck</i>	Bonjour(こんにちは)! 外国語としてのフランス語教授法が専門です。 外国語でコミュニケーションをとることは異なる文化を知り、世界を違った角度から見る良い機会です。一緒にフランス語を話しましょう!

他大学との学科・ゼミ単位の交流

外国語学部では、類似する専門を有する近隣他大学と連携して、合同の研究発表会や合宿を実施している学科やゼミがあります。そのうちのいくつかを紹介いたします。

英米学科では、南山大学外国語学部英米学科と合同で、発表・質疑応答のすべてを英語で行う卒業論文発表会を開催しています。2018年度のこのJoint Theses Presentationの参加者は29名で、奥田泰広教員、久田由佳子教員、広瀬恵子教員、正木慶介教員のゼミ生などが参加しました。

フランス語圏専攻の中田晋自教員のゼミは、全国の諸大学で主にヨーロッパ政治の研究をしているゼミの学生が集う「合同ゼミ合宿」(2015年以来、毎年9月に開催)に参加しています。

スペイン語圏専攻の小池康弘教員のゼミは、愛知県内7大学および県外4大学で国際関係・国際政治の研究に取り組むゼミが研究発表を行う「名古屋国際関係合同ゼミナール」に、1993年から参加しています。

西洋史を専門とする英米学科の久田教員、正木教員、スペイン語圏専攻の奥野良知教員、ドイツ語圏専攻の今野元教員のゼミは、名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学と「インターゼミナール」という活動を行っています。

スペイン語圏専攻 | ヨーロッパ学科

Sección de Estudios Hispánicos y Latinoamericanos
Departamento de Estudios Europeos



スペイン語人口は20以上の国・地域の4億人に上り、世界第2位。アメリカ合衆国内のヒスパニックは約5千万人以上、人口の16%。ラテンアメリカのGDP合計はASEAN諸国全体の2.5倍。スペイン語の重要性は世界中で増えています。日本国内をみても、特に愛知県では、スペイン語やポルトガル語を話せる、地域の人材が必要とされています。

スペイン語圏専攻では、実践的な場で使えるスペイン語能力とスペイン・ラテンアメリカに関する深い理解をいかして、企業・行政・教育などの分野でグローバルに活躍し、地域と国際社会を結ぶことができる人材の育成をめざしています。3年次からはコースに分かれ、高度なスペイン語運用能力とスペイン語表現の文化への理解を深める言語・文化コースと、社会科学的な応用力を養いつつスペイン・ラテンアメリカからヨーロッパまたは新興国へと視野を広げる社会コースに進みます。さらに、ポルトガル語やブラジルの文化・社会も学べ、言語を通じて幅広い国・地域について専門的に学べるのがスペイン語圏専攻の特長です。スペイン語を武器に、みなさんの世界を一層広げてみませんか。

4年間で習得できること

- ✓ 実践的な場で使えるスペイン語
(卒業時の到達目標 DELE B1以上)
- ✓ スペイン・ラテンアメリカに関する深い理解
- ✓ ポルトガル語、ブラジル文化・社会の知識



外国人児童生徒の教育を支援するスクール・ボランティアの様子



2012年度卒業
笠原裕也さん
(株)オービック

私はスペインのブンペウ・ファブラ大学に約1年間留学していました。スペインではどの授業でも「参加」が求められ、自分の意見を発信する必要があります。最初は間違えることが怖く、なかなか考えを声に出すことはできませんでしたが、徐々に習慣づき積極的に授業に参加することができました。自分の意見を持つということが重要であり、正解か不正解かは関係ないということに気づかされました。社会でも同様なことが求められますが、スペイン留学での経験が私を支えてくれています。こんな経験の場を与えてくれた県大スベ科に感謝しています。



2014年度卒業
竹内彩乃さん
日本航空客室乗務員

専攻全体が約40人と少数なため、先生を含めた全員の距離が近くどの学年もとても仲が良いのが特徴です。また一人ひとりが多くの興味を持ち個性も豊かなので、普段から刺激を受ける事が多くありました。そのようなモチベーションの上がる仲間と過ごせた時間は本当に中身の濃いものであり、私にとってかけがえのない時間でした。大学生活は社会へ出る前に沢山の人と出会い、様々な事に挑戦し経験を積み視野を広げるとともに、自分の可能性も上げられる大変貴重な期間であると思います。その全てを充実させられる環境がここには整っています。



スペイン・メキシコでの短期集中講座



メキシコでのインターンシップの様子

スペイン語圏専攻のカリキュラム

	スペイン語を身につける	スペイン語以外の外国語を学ぶ	スペイン語圏および関連地域の文化・社会について専門的に学ぶ		専門分野について調べ、発表し、討論する	世界に関する学びの方法を身につける 日本について知る	
1年	スペイン語総合 コミュニケーションスペイン語Ⅰ グローバルスペイン語トレーニングⅠ	外国語科目Ⅰ (以下から選択) ●英語 ●フランス語 ●ドイツ語 ●中国語 ●ロシア語 ●ポルトガル語 ●韓国朝鮮語 ●日本語 (留学生対象)	スペイン語圏研究概論 ●スペイン ●ラテンアメリカ		海外協定大学修得科目 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ ●社会	言語研究入門 文学・文化研究入門 政治・経済研究入門 歴史・社会研究入門	
	2年	スペイン語文法 スペイン語講読 ギリシア語 コミュニケーションスペイン語Ⅱ グローバルスペイン語トレーニングⅡ グローバルスペイン語トレーニングⅢ	外国語科目Ⅱ (韓国朝鮮語を除きⅠと同じ)	ラテン語 ギリシア語 諸地域言語 (ヨーロッパ諸語) 諸地域言語 (アジア諸語) 2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話 (年度毎に変更)			スペイン語圏研究概論 ●言語 ●文学 スペイン語圏研究各論 ●スペイン語圏言語 ●スペイン語圏文学 ●スペイン・ラテンアメリカ文化 ●スペイン史 ●スペイン社会・経済 ●ラテンアメリカ史 ●ラテンアメリカ政治・経済 ●スペイン語圏特殊講義 ●Estudios de Japón e Iberoamérica
3年	コミュニケーション スペイン語Ⅲ グローバルスペイン語 トレーニングⅡ 教科教育法 ●スペイン語	スペイン語文献読解 専門分野スペイン語 ●時事・ビジネス ●コミュニティ ●医療 グローバルスペイン語 トレーニングⅢ	外国語科目 英語 ●World News ●Issues of Our Times ●Introducing Japan ●Expressing Your Ideas エクスプレス・カタルーニャ語 エクスプレス・ポルトガル語	ヨーロッパ共通研究各論 ●ヨーロッパ中世・近世史 ●EU 経済論 ●地域と国家 ●地域・都市再生論 ●民主主義と分権化 ●メディアと人権 ●多言語社会研究など アジア・新興国研究各論 ●日本経済と新興国 ●イスラーム圏研究 ●ASEAN 研究 ●アフリカ研究 ●コロニアリズム文化史 ●移民と文化接触 ●南北アメリカ国際関係など	研究演習 ●スペイン語学 ●スペイン・ラテンアメリカ文学 ●ラテンアメリカ文化・思想 ●ラテンアメリカ文化・社会 ●ラテンアメリカ政治・経済 ●スペイン史 ●スペイン社会・経済 ヨーロッパ共通研究演習	国際社会研究各論 ●国際法Ⅰ ●世界経済論 ●多文化共生論 ●NPO 論 ●文化人類学Ⅰ ●国際政治学 ●国際関係史 ●国際協力 ●宗教学 ●社会言語学 ●民族音楽学 ●グローバル金融 ●グローバル・ガバナンス ●地域社会論	
	4年	スペイン語応用会話 スペイン語学術作文				卒業論文	●日本語学 ●日本語音声学 ●日本語文法論 ●日本語教育教材論 ●日本語教授法 グローバル各論 ●日本紹介 ●比較文化セミナー ●リサーチ・発信プロジェクト

スペイン語圏専攻の専任教員

氏名	専門分野
糸魚川美樹 <i>ITOIGAWA, Miki</i>	スペイン語学・社会言語学。スペイン語とそれが話されている社会の関係についてジェンダーや社会的マイノリティなどの視点から考察。
江澤照美 <i>EZAWA, Terumi</i>	スペイン語学、スペイン語教育。スペイン語が世界中でどのように使われているかを社会と人間の関わりから考察・研究している。 また、日本語を母語とする学習者にスペイン語を効果的に習得してもらう方法を追究している。
奥野良知 <i>OKUNO, Yoshitomo</i>	カタルーニャの歴史と地域研究。同地ではなぜ経済活動が歴史的に盛んなのか、同地はなぜ独自のアイデンティティを持ち続けているのか、等々。
小池康弘 <i>KOIKE, Yasuhiro</i>	ラテンアメリカ地域研究。現代ラテンアメリカ諸国の国際関係や政治変動のメカニズム。 キューバのナショナリズムと社会主義体制の関連性について。
竹中克行 <i>TAKENAKA, Katsuyuki</i>	地理学・現代都市論。スペインをはじめ、地中海ヨーロッパのフィールドワークをもとに、地域多様性のマネジメントを軸とする都市・地域再生の方法論を探求。
田邊まどか <i>TANABE, Madoka</i>	黄金世紀（16・17世紀）のスペイン文学。 初期近代のインテレクチュアル・ヒストリーと文学の関連。
谷口智子 <i>TANIGUCHI, Tomoko</i>	宗教学、ラテンアメリカ地域研究（歴史・文化）。 大航海時代以降のキリスト教の世界布教と植民地主義、メソアメリカ、ラテンアメリカ、アジアにおける異文化接触。
渡会 環 <i>WATARAI, Tamaki</i>	ブラジル地域研究、現代ブラジルにおける人種・エスニシティの問題、ブラジル人の国際移動、ポルトガル語。
アレックス・ピナル・ガルシア <i>PINAR GARCIA, Alex</i>	言語学、比較文学、日本映画。
フランシスコ・ハビエル・ロペス・ロドリゲス <i>LOPEZ RODRIGUEZ, Francisco Javier</i>	映画学・カルチュラルスタディーズ・ジェンダー研究・外国語教育における映画の使い方。

医療分野ポルトガル語・スペイン語

平成19年（2007年）度から3年間、社会人の再就職やキャリアアップを支援する文部科学省委託事業「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」として県大長久手キャンパスと名古屋駅直近のサテライトキャンパスで開講した本講座は、その後本学独自の事業として引き継がれ、現在に至ります。

外国語学部や看護学部の教育経験を活かし、主に医療関係者を対象として、「語学の授業」（ポルトガル語またはスペイン語を選択）と「基礎知識講座」（外国籍住民をめぐる現況やコミュニケーション支援についての講義）という二本立てのカリキュラムを、開講当初から維持しています。「中級」「中級（発展）」を合わせた2カ年120時間のプログラムは、平成28年（2016年）度から文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定されました。平成30年（2018年）度からは、開講の場をサテライトキャンパスに絞っています。

これまでの本講座受講生の中には、愛知県や近県にお住まいの方々だけでなく、近くに同様の講座が見つからないという理由で、新幹線を利用して遠方から通学されていた方々もおられます。名古屋駅に近いサテライトキャンパスでの講座開講の利点はこんなところにも活かされています。

本講座実行委員一同は、多くの方々のご理解とご協力のもと維持してきた本講座を今後も継続発展させ、地域社会のニーズによりいっそう応えていきたいと考えています。



講座オリジナルテキスト



授業の様子



ドイツ連邦共和国は世界第4位の、EUで最大の経済大国であり、日本にとって主要な貿易相手国の一つです。自動車産業をはじめとして、愛知県にとっても経済的に重要なパートナーです。

ドイツ語圏と日本との間には、多文化共生、環境保護、エネルギー政策（原発問題）、少子高齢化社会など、共通する課題が多くあります。これらの解決のために、ドイツ語圏の実情について学ぶことはとても意義があるのです。

ドイツ語の母語話者数は1億人を超え、母語話者数の多い10言語のうちの一つであり、EUで最も母語話者数の多い言語です。ドイツ語の学習者は、英語の次に多く、現在、世界中で1700万人います。ドイツ語は、ドイツ文化・社会を学ぶ上で、また国際的なコミュニケーションにおいて必要不可欠な言語なのです。ドイツ語圏専攻では、1クラス20名弱でドイツ語の少人数教育を行っています。

あなたも、さまざまな角度からドイツ語圏の文化と社会を学び、グローバルな視点から国際社会・地域社会における「共生」に貢献できるのです。

4年間で習得できること

- ✓ EUで最も母語話者の多いドイツ語の習得
(卒業時の到達目標 ドイツ語技能検定試験 2級以上)
- ✓ 日本と共通する社会的課題の理解
- ✓ 「共生」に貢献できるグローバルな視点



2015年度卒業
菊池あかりさん
トヨタ自動車(株)

県大の授業は、少人数制のクラスで教授との距離が近く、アットホームな雰囲気です。特に世界各国からの交換留学生たちと交流できる iCoToBa では、留学生だけでなく先輩、後輩、気さくな先生方との繋がりもでき、行けばいつでも誰かがいる、そんな安心感があります。1年間のイギリス留学では、言葉が通じず苦労しました。しかしそれならジェスチャーで、表情でとコミュニケーションをとるうちに、様々な国からの友人ができ言語はもちろん総合的なコミュニケーション能力も身につきました。現在の仕事では海外とのやり取りもあり、日々の業務で戸惑うことも多々ありますが、まずは相手先や業務を理解しようと考えてみるという習慣がついたのは、県大で多くの人と密なコミュニケーションをする機会があったおかげだと思っています。



2016年度卒業
田中愛さん
名古屋市役所

私は現在、名古屋市職員として西区役所保険年金課で国民年金担当として働いています。あまり馴染みがない分野で、全て一からの勉強ですが、大学時代に培った「何事も興味を持って挑戦する」という精神で日々乗り越えています。大学時代はドイツとカナダに留学しました。ドイツで生活した際、清潔で自然も多く美しい街並み、整備された交通機関、人々の美意識に感動したと同時に公共機関で言葉が通じず不安を感じたことは今でもよく覚えています。こうして自身が「外国人」として暮らした貴重な経験は名古屋に住む外国の方の豊かな暮らしを考える際、非常に生きてくるのではと考えています。「住む人が街を好きになれば自然と街は良くなっていく」と言います。私の仕事は街を大きく変えられるものではありませんが、国籍を問わず窓口に来る全ての方に大学で得た語学力を以て最上の接遇をし、街を好きになってもらい、名古屋を国際的に魅力ある街にして行くのが今の目標です。

ドイツ語圏専攻のカリキュラム



	ドイツ語を身につける	ドイツ語以外の外国語を学ぶ	ドイツ語圏の文化・社会について専門的に学ぶ	専門分野について調べ、発表し、討論する	ヨーロッパ共通の問題を様々な視点から学ぶ	幅広い知識や教養を身につける			
1年	ドイツ語 I ●文法 ●総合 ●会話	外国語科目 I (以下から選択) ●英語 ●ロシア語 ●スペイン語 ●ポルトガル語 ●フランス語 ●韓国朝鮮語 ●中国語 ●日本語 (留学生対象)	研究概論 ●ドイツ語圏文学 ●ドイツ語圏文化 ●ドイツ語圏社会	海外協定大学修得科目 基礎演習 I ●言語・文化 ●社会	基礎演習 I	言語研究入門 文学・文化研究入門 政治・経済研究入門 歴史・社会研究入門			
	ドイツ語 II ●文法 ●講読 ●作文 ●会話	ドイツ語実践 I・II	外国語科目 II (韓国朝鮮語を除き I と同じ) ラテン語 ギリシア語 諸地域言語 (ヨーロッパ諸語) 諸地域言語 (アジア諸語) 2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話 (年度毎に変更)			研究各論 ●ドイツ史 ●ドイツ政治 ●ドイツ経済 ●ドイツ法 ●ドイツ語学 ●ドイツ文学 ●ドイツ文化 ●北欧の言語・文化 ●ドイツ語圏特殊講義	基礎演習 II ●言語・文化 ●社会	世界の中のヨーロッパ ●社会 ●文化	学部共通各論 ●経済学 ●日本の行政法 ●日本の民法 ●日本の文化 ●思想史 ●比較文化論
	ドイツ語 III ●講読 ●作文 ●会話 教科教育法 ●ドイツ語	外国語科目 英語 ●World News ●Issues of Our Times ●Introducing Japan ●Expressing Your Ideas	研究講読 ●ドイツ語圏社会 ●ドイツ語圏文化			研究演習 ●ドイツ史 ●ドイツ政治 ●ドイツ法 ●ドイツ語学 ●ドイツ文学 ●ドイツ文化 ●北欧の言語・文化 ヨーロッパ共通研究演習	ヨーロッパ共通研究各論 ●ヨーロッパ中世・近世史 ●民主主義と分権化 ●EU 経済論 ●地域と国家 ●地域・都市再生論 ●ヨーロッパ統合論 ●多言語社会研究 ●メディアと人権 ●ヨーロッパ研究特殊講義	国際社会研究各論 ●国際法 I ●世界経済論 ●国際政治学 ●国際関係史 ●グローバル・ガバナンス ●多文化共生論 ●NPO 論 ●国際協力 ●アフリカ研究 ●異文化コミュニケーション ●宗教学 ●社会言語学 など	アジア・新興国研究各論 ●アジア・新興国論 ●日本経済と新興国 ●ASEAN 研究 ●イスラーム圏研究 ●ロシア研究 ●南北アメリカ国際関係 ●東アジア社会
	ドイツ語 IV ●総合 ●会話					卒業論文		グローバル各論 ●日本紹介 ●比較文化セミナー ●リサーチ・発信プロジェクト	



ドイツ語圏専攻の専任教員

氏名	専門分野
池田利昭 <i>IKEDA, Toshiaki</i>	ドイツ中近世史、ドイツ中近世における犯罪と刑罰の歴史、近世ポリティアイ史、ドイツ都市史
今野 元 <i>KONNO, Hajime</i>	ドイツ政治思想（フランス革命から第二次世界大戦までのナショナリズム研究）。ヨーロッパ国際政治史（ドイツ国民国家形成史）。日独関係史（吉野作造と上杉愼吉を中心に）。
櫻井 健 <i>SAKURAI, Takeshi</i>	言語学。言語の変化する特性と人間の活動との関係。集団の接触により生じる言語現象。北ゲルマン諸語。
杉原周治 <i>SUGIHARA, Shuji</i>	ドイツ法、憲法学、メディア法、放送法。
人見明宏 <i>HITOMI, Akibiro</i>	ドイツ語文法。ドイツ語の文とテキストの構造（新旧情報などの伝達価値と文における語順、テキストにおける文の配列や言語表現との関係）。ドイツ語教育。
平井 守 <i>HIRAI, Mamoru</i>	ドイツ語圏の文学、文化（ゲーテ、ベンヤミン、デリエ、オペラ、歌曲など）。
山本順子 <i>YAMAMOTO, Junko</i>	20世紀初頭のドイツ語圏の様々な文化現象（造形芸術、言語芸術、映画など）。芸術理論。
四ツ谷亮子 <i>YOTSUYA, Ryoko</i>	20世紀以降のドイツ語圏の演劇。舞台芸術（せりふを中心とした劇、オペラやミュージカルなどの音楽劇、ダンス…）およびパフォーマンスの理論。日米欧の文化政策の比較。
オリバー・アーヒ <i>ARICH, Oliver</i>	ドイツ語コミュニケーション・学習理論（構成主義・脳神経科学）・デジタル教育。
ヤン・ゲリット・シュトララー <i>STRALA, Jan Gerrit</i>	日本学、19世紀・20世紀のドイツと日本の哲学、現象学、異文化間哲学、京都学派の哲学。

言語圏を越えた学び

外国語学部は、外国語の修得や言語と結ばれた文化の理解に教育の基盤を置いています。同時に、過去・現在・未来にわたるグローバル世界の動態、あるいは日本と世界の諸地域の繋がりについて学ぶことも大切です。本学の外国語学部では現在、以下の教育プログラムを提供しており、それらを土台として、言語圏を越えた専門的な学びの仕組みを今後さらに構築していきます。

アジア・新興国プログラム

アジア・環太平洋をはじめとする地域の新興国は、国際社会での政治・経済両面の存在感を高め、日本との関係が緊密化しています。これらの国・地域について深く理解することは、国際社会での活躍のために大きな意味をもちます。本学の外国語学部では、2014年度に「アジア・新興国プログラム」を設置しました。このプログラムでは、所属学科・専攻以外のゼミを履修することができ、所定の単位を修めれば、卒業証書とは別に修了証が授与されます。

グローバル実践教育プログラム

本学外国語学部は、2012～2016年度の5年間、文部科学省の助成を受けて「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム」を展開しました。これを継承して2017年度からは、新しいグローバル社会を切り拓き、地域の課題解決に貢献する人材の育成を目的として、全学の「グローバル実践教育プログラム」が展開されています。プログラム履修者は、外国語到達目標レベルや指定科目の単位修得に関わる要件を満たし、学修成果をiCoToBa（多言語学習センター）で発表することで、修了認定を受けることができます。

中国学科

中国学科 / 中国学科



21世紀はアジアの時代です。その中でも、中国語が使用される中国語圏は、世界で最も経済発展が著しい地域の一つです。したがって、アジアを舞台として活躍するためには、外国語に堪能であるばかりでなく、中国語圏についての異文化理解能力と、国際的視野に立った判断力を持つことが必要です。

この学科では、2年後期から「言語・文化コース」「社会コース」「翻訳・通訳コース」のどれかを選択し、専攻外国語として中国語をコースの特性に応じて学習することになります。これに加えて、「言語・文化コース」と「社会コース」では、中国の言語・民族、文学・文化、歴史・社会、政治・経済について専門的に学ぶことができます。「翻訳・通訳コース」では、ビジネス、観光、医療・福祉の科目やネイティブによる「原語特殊講義」科目を必修とすることで、中国語のさらなるレベル向上をめざします。

中国学科は、中国語圏さらには中国語圏を基盤としたアジア諸地域を研究・教育の主な対象とし、今後日本との交流がますます盛んになる中国・アジア地域に向き合い、優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮することができる人材の育成を目指しています。

4年間で習得できること

- ✓ 高度な中国語運用能力
(卒業時の到達目標 中国語検定試験2級もしくはHSK5級以上)
- ✓ 中国語圏・アジア諸地域に関する基礎知識、総合的な分析能力
- ✓ ビジネスや観光、医療・福祉の現場に対応できる中国語能力



卒業生の声



2009年度卒業
榎原真理子さん
愛知県立大学大学院
日本学術振興会特別研究員 PD

北京師範大学で、語学研修を1年、学部の研究生を1年で、計2年留学しました。語学研修では会話の得意な各国の留学生に、学部の授業では中国人学生で満席の教室によく緊張していました。でも、それは最初だけのこと。自ら声をかければ先生方もクラスメイトも惜しみなく助けてくれました。キャンパスの外でも方言、食文化、音楽、地元の人々……と多彩な中国らしく、多くの出会いがありました。その中で、私は演劇の面白さに出会い、今、大学院で研究するに至っています。自ら動けば、それだけ世界が広がるのだと実感しています。



2016年度卒業
元長 舜さん
鈴木(株)

私は静岡市の清水に本社を構える物流企業、鈴木株式会社に勤務しています。現在は、清水港を通して貨物を輸出入したいお客様の荷役（船に載っている貨物のあげおろし）を手配する仕事をしています。海外とつながりのある仕事をする憧れが子供の頃からあり、実際に英語で書かれた書類に触れる機会もあるので、刺激のある毎日です。また、お客様だけでなく、実際に荷役を行う作業員の方々と荷役の効率を上げる方法を考え合ったり、いろいろ難しいと感じることもあります。責任とやり甲斐のある仕事です。

私は愛知県立大学でまず中国語を学び、さらに中国だけでなく東南アジア社会についての勉強をしました。私の会社はアジア諸地域にたくさんの拠点を持っており、将来は駐在員として働くことを目標にしています。学生時代に広く外国の言語や文化について学んだことで、海外で働きたいという気持ちは一層強くなりました。愛知県立大学は目標に向けての第一歩を踏み出せた場所です。皆さんにもそれぞれ目標を掲げ、有意義な大学生活、そして将来へのステップアップを図っていただきたいと思います。

中国学科のカリキュラム



	中国語を身につける	中国語以外の外国語を学ぶ	中国語圏とその周辺の文化・社会について専門的に学ぶ	専門分野について調べ、発表し、討論する	幅広い知識や教養を身につける		
1年	中国語 I ●基礎 ●総合 ●文法作文 ●会話	外国語科目 I (以下から選択) ●英語 ●フランス語 ●スペイン語 ●ロシア語 ●ポルトガル語 ●韓国朝鮮語 ●日本語 (留学生対象) ●ドイツ語	研究概論 ●中国語・言語民族 ●中国文学・文化 ●中国歴史・社会 ●中国政治・経済 ●東アジア社会	海外協定大学修得科目 基礎演習 I ●中国語・言語民族 ●中国文学・文化 ●中国歴史・社会 ●中国政治・経済	言語研究入門 文学・文化研究入門 歴史・社会研究入門 政治・経済研究入門		
	中国語 II ●総合 ●講読 ●文法作文 ●会話	●ビジネス中国語 ●観光中国語 ●医療・福祉中国語	外国語科目 II (韓国朝鮮語を除き I と同じ) 東アジア言語 ●台湾語 ●上海語 (年度毎に変更) ラテン語 ギリシア語 諸地域言語 (ヨーロッパ諸語) 諸地域言語 (アジア諸語)			研究各論 ●中国語 ●言語民族 ●中国文学 ●中国文化 ●中国歴史 ●中国社会 ●中国政治 ●中国経済 ●東アジア言語文化 ●東アジア社会	基礎演習 II ●中国語・言語民族 ●中国文学・文化 ●中国歴史・社会 ●中国政治・経済
2年	中国語 III ●講読 ●文法作文 ●会話 教科教育法 ●中国語	●時事中国語など 原語特殊講義 ●中国事情 ●言語文化 ●歴史社会 特殊研究 ●翻訳・通訳演習	外国語科目 英語 ●World News ●Issues of Our Times ●Introducing Japan ●Expressing Your Ideas	2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話 (年度毎に変更)	研究講読 ●中国語・言語民族 ●中国文学・文化 ●中国歴史・社会 ●中国政治・経済	研究演習 ●中国語 ●言語民族 ●中国文学 ●中国文化 ●中国歴史 ●中国政治 ●中国経済 ●東アジア社会	アジア・新興国研究各論 ●アジア・新興国論 ●日本経済と新興国 ●ASEAN 研究 ●イスラーム圏研究 ●ロシア研究 ●南北アメリカ国際関係 ●アフリカ研究
	4年				卒業論文		

氏名	専門分野
袁 晓今 <i>YUAN, Xiaojin</i>	中国語の語構成、名詞研究・生成語彙論・日中対照言語学。
川尻文彦 <i>KAWAZIRI, Fumihiko</i>	近現代中国の思想文化史、日中文化交流史。明治期日本と清末民国期中国の「学知」の連鎖、中国哲学。
工藤貴正 <i>KUDOHO, Takamasa</i>	中国近現代文学、比較文学。中国語圏の「近代」意識、戦後台湾における民族・文化・政治・国家アイデンティティ。
黄 東蘭 <i>HUANG, Donglan</i>	中国近現代史、近代日中関係史。日中両国歴史教科書の比較研究。
小座野八光 <i>KOZANO, Yako</i>	インドネシア経済史。ジャワ村落社会研究。東南アジアにおけるキリスト教研究。
鈴木 隆 <i>SUZUKI, Takashi</i>	政治学、国際関係論。現代中国の政治と外交、東アジア国際政治。
月田尚美 <i>TSUKIDA, Naomi</i>	言語学、音声学。言語の記述（音韻、形態、統語）。類型論。台湾原住民諸語、少数民族言語の記録・復興・保存。
西野真由 <i>NISHINO, Mayu</i>	中国経済論。現代中国の農業、農村経済。
楊 明 <i>YANG Ming</i>	専門分野は現代中国語文法。特に認知言語学のパラダイムで語彙・文法を中心とし日本語との対照研究も視野に入れた研究を行っている。
王 幼敏 <i>WANG, Youmin</i>	中国言語・文化教育、中国古代文学・文化。
張 金平 <i>ZHANG, Jinping</i>	中国語歴史文法、現代中国語文法、言語と社会、対外中国語教育。

地域ものづくり学生共同プロジェクト

県大では、学生が、海外展開やインバウンドに挑戦する地域の企業を取材し、多言語広報物を作成したり、企画提案を行うプロジェクト型の授業を行っています。この科目は、全学のグローバル実践教育プログラムの指定科目であり、県大の特徴ある取り組みです。

プロジェクトでは、学生はチームになり、ひとつの企業を担当します。企業・業界研究をした後、企業取材を行います。これらの調査を基に、ターゲット向けの広報物を作成します。この広報物は、単なる日本語記事の翻訳ではありません。使用言語ごとに、読み手の背景にある文化も考慮に入れて伝える工夫をしています。

このプロジェクトを通して、学生はグローバルに活躍するために必要な視点を得て、外国語能力を磨き、問題解決力を身につけます。また、地域産業に関心をもつきっかけにもなっています。海外展開に挑戦する企業にとっては、外国語での情報発信が重要課題のひとつであり、学生が作成した多言語広報物は海外での展示会等で活用されています。また、新商品開発につながったプロジェクトもあります。



国際関係学科

Department of International and Cultural Studies



国際関係学科は、個々の国家や社会の特徴をミクロなレベルから観察する一方で、それらの間の関係をマクロなレベルから考察して、より広く、より深く世界を観察・分析できるようにすることを目標としています。

このため、複数のネイティブ教員を中心に充実した英語教育を行う一方で、世界の様々な国や地域に目を配り、Think globally, Act locally を実践する人材を育てます。

国家間の関係がどのようなものなのか、政治・経済・法律などを中心と考えたい人のために「国際関係コース」が、ある国家がどのような文化的背景をもっているのか、民族構成や言語・文化の観点から考えたい人のために「国際文化コース」が用意されています。

みなさんが世界に出て、問題解決のために努力するときに大学で学んだことが役に立つ——そんな学科をわたしたちは目指しています。

4年間で習得できること

- ✓ 高度な英語運用能力
(卒業時の到達目標 TOEIC Listening & Reading Test 800点以上)
- ✓ 優れた異文化理解能力
- ✓ 国際社会に関する知識



新入生歓迎合宿



フィールドワーク・フェスタ「旅の写真展」

卒業生の声



2013年度卒業
伊藤亜衣さん
共同通信社

私は、国内外のメディアにニュースを配信する通信社の記者として、事件事故やイベントの取材を主に担当しています。現場に行き、様々なひとに話を聞き、記事を書く。毎日違う仕事ができる記者の仕事はとても楽しいです。もちろん痛ましい悲しい事件や事故の取材もあります。「伝える」ことで何かが変わると信じて、伝え続けていきたいと思っています。私は愛知県立大学で教養を中心に幅広い分野を学びたいと思い、国際関係学科を専攻しました。そして他の大学院でジャーナリズムを専攻して、共同通信社に入社しました。大学4年間では、講義で知識を得たことはもちろんですが、なにより「ひと」との関わり合いのなかで多くを学んだと思います。在学中はたくさんの教職員の方々にお世話になりました。他愛もない話から進路の相談まで、授業外でも熱心に話をしてくださいました。愛知県立大学の財産は「ひと」だと思います。いま第一志望だった共同通信社の記者として働いているのは、大学4年間の経験がとても大きいと思っています。みなさんも少し厚かましくくらいに研究室のドアをノックしてみてください。



2016年度卒業
河島健太さん
伊藤忠商事

学生時代は、国際経済ゼミに所属し、国際政治や国際法、文化人類学や農業経済なども体系的に学びました。ユニークな先生方に刺激され、思い切って1年休学し、世界中の農家を訪ね、住み込みで働いたりもしました。現在は、総合商社で植物油の輸出入に関わる仕事をしています。まだ若手ですが、多くの外国人と仕事を進め、一人で海外に出張することもあります。目まぐるしく変化する世界で文化の違う人々と対等に涉り合う為には、現状の課題を多角的に分析し、様々な背景を持つ考え方を柔軟に受け入れなくてはなりません。国際関係学科で夢と力を育て、世界に飛び立ってください。

国際関係学科のカリキュラム



	英語を身につける	英語以外の外国語を学ぶ	さまざまな地域の文化・社会について専門的に学ぶ				専門分野について調べ、発表し、討論する	幅広い知識や教養を身につける		
1年	Reading I Writing I Oral Communication I Integrated Oral English Debate	外国語科目Ⅰ (以下から選択) ●フランス語 ●スペイン語 ●ドイツ語 ●中国語 ●ロシア語 ●ポルトガル語 ●韓国朝鮮語 ●日本語 (留学生対象)	研究概論				海外協定大学修得科目	基礎演習Ⅰ		言語研究入門 文学・文化研究入門 政治・経済研究入門 歴史・社会研究入門
	2年	Reading II Writing II Oral Communication II Topic Reading	外国語科目Ⅱ (韓国朝鮮語を除きⅠと同じ)	ラテン語 ギリシア語 諸地域言語 (ヨーロッパ諸語) 諸地域言語 (アジア諸語) 2019年度は以下を開講 ●イタリア語 ●アラビア語 ●アイスランド語 ●インドネシア語 ●タイ語 ●ベトナム語 ●韓国朝鮮語 ●日本手話 (年度毎に変更)	研究各論 ●国際法Ⅰ ●世界経済論 ●多文化共生論 ●NPO論 ●異文化コミュニケーション ●文化人類学Ⅰ	研究各論 ●国際政治学 ●国際関係史 ●日本経済と新興国 ●国際協力 ●民族問題 ●アジア・新興国論 ●ASEAN研究 ●ロシア研究		研究各論 ●特殊講義	基礎演習Ⅱ	
3年		Presentation Information Literacy and Research Practice Writing for Academic Purpose Writing for Business Purpose			研究各論 ●イスラーム圏研究 ●アフリカ研究 ●宗教学 ●南アジア文化研究 ●民族音楽学 ●社会言語学 ●多言語社会研究 ●文学・批評	研究各論 ●国際法Ⅱ ●グローバル金融 ●グローバル・ガバナンス ●国際紛争 ●地域社会論 ●文化人類学Ⅱ ●民族言語研究	研究講読 ●国際関係 ●国際文化	研究演習 ●国際関係 ●国際文化	卒業論文	●日本語学 ●日本語音声学 ●日本語文法論 ●日本語教育教材論 ●日本語教授法 グローバル各論 ●日本紹介 ●比較文化セミナー ●リサーチ・発信プロジェクト
	4年									

国際関係学科の専任教員

氏名	専門分野
秋田貴美子 <i>KIMIKO, Akita</i>	日米文化、多文化を人類学、女性学の領域から研究。言葉遣い、仕草、ポップカルチャーに見られるエスニック・人種・ジェンダーに関する偏見、差別を考察。
東 弘子 <i>AZUMA, Hiroko</i>	日本語学、社会言語学。敬語など対人関係に関わる文法システムの解析。また多言語・多文化化する日本社会における日本語のあり方や捉えられ方についての考察。
亀井伸孝 <i>KAMEI, Nobutaka</i>	文化人類学、アフリカ地域研究。フィールドワークを通じ、狩猟採集民、アフリカの子どもの生活と文化、ろう者コミュニティと手話言語などの研究を行っている。
アンドレア・カールソン <i>CARLSON, Andrea</i>	専門はハイテクを用いた英語教育。多様な社会・文化背景の子供達のメンタルヘルスサポート研究をしています。どうぞよろしく！
木下郁夫 <i>KINOSHITA, Ikuo</i>	国際政治学。主権をもつ国家同士の関わり合いを究明する。国や国際機構の外交によって、どのように平和が保たれ、または、どうして戦争になってしまうか考える。
高阪香津美 <i>KOSAKA, Katsumi</i>	多文化化する日本社会の中で、ポルトガル語教育をブラジル人児童・生徒の母語教育と外国語教育の両側面から捉え、現状と課題を明らかにし今後の在り方を探る。
高橋慶治 <i>TAKAHASHI, Yoshitaru</i>	現代チベット語、キナウル語の記述研究。現地調査による資料収集と分析を行う。とくに動詞の活用と名詞形式の関連をめぐる形態統語論レベルの現象の探求。
半谷史郎 <i>HANYA, Shiro</i>	ロシア研究、特に20世紀ソ連時代の民族政策や文化政策が専門です。また日本人がソ連をどう見ていたかという観点から、日ソ関係史にも関心を持っています。
福岡千珠 <i>FUKUOKA, Chizu</i>	アイルランドの文化ナショナリズムを社会学的観点から研究。とりわけアイルランド自由国以降のアイルランド語復興に焦点を当てる。
藤倉哲郎 <i>FUJIKURA, Tetsuro</i>	東南アジア地域研究、おもに社会経済分野。高度経済成長下ベトナム農村の社会経済変化を、他のアジア諸国との比較を念頭にしつつ、農村就労や労働市場に着目して研究している。
エドガー・ライト・ポープ <i>POPE, Edgar Wright</i>	ポピュラー音楽を歴史的・政治的・文化的な文脈のなかで分析する。特に戦前・戦時中の日本とアメリカのポピュラー音楽における異国情緒・異文化情緒が焦点。
宮谷敦美 <i>MIYATANI, Atsumi</i>	多様化した日本語学習者に対応した日本語指導方法がテーマです。日本語母語話者の会話の特徴と日本語学習者がつまづきやすいことを踏まえた教え方や教材開発に取り組んでいます。
矢野順子 <i>YANO, Junko</i>	東南アジア政治、東南アジア地域研究。ラオスを中心に植民地期～独立後の東南アジア諸国のナショナリズム、国民国家建設について研究している。
山口雅生 <i>YAMAGUCHI, Masao</i>	日本経済や国際経済をマクロ経済学的な視点から分析。金融政策と国際資本移動、最低賃金政策と雇用、経済停滞の要因、技術進歩と経済成長に関心がある。
山下朋子 <i>YAMASHITA, Tomoko</i>	国際法。多様化する現代の国際問題について、法的分析を行う。国家間関係を規律してきた国際法が、個人、企業、国際機構等との関係でどのように機能するのかに興味がある。

取得できる資格

教員免許

本学では、中等・高等学校教諭専修免許を含む、幅広い教員免許を取得することのできる体制が整っています。そのうち、外国語学部で取得できる教員免許として、中学校教諭一種（英語）、高等学校教諭一種（英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語）があります。併せて、学校図書館司書教諭資格も取得可能です。

なお、2014年度から2018年度までの教員免許の取得状況は、英語（中学校）（英米学科66名、その他の学科・専攻24名）、英語（高等学校）（英米学科87名、その他の学科・専攻36名）、フランス語（8名）、スペイン語（8名）、ドイツ語（0名）、中国語（11名）となっています。

日本語教員課程

本学では、外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部の学生が、日本語教員課程を履修することができます。日本語そのものの知識や日本語の教え方はもちろん、地域の日本語教室での実習を通して、さまざまな多言語・多文化状況で必要となるコミュニケーション能力を身につけることができます。毎年20名程度が修了し、卒業後は、プロの日本語教師をはじめ、地方自治体やグローバル企業などで活躍しています。

卒業生の声

国際関係学科2016年度卒業

佐藤 遥さん

日系社会青年ボランティア（在ブラジル）



日本語教員課程では、仲間や先生方との関わりからたくさんことを学びました。特にブラジル出身日系人の集住地域の一つ愛知県だからこそ、日本語教育実習の地域活動を通して取り組んだ課題は、リアルな実感を伴うものでした。

今の私は、12時間時差のあるブラジルで「将来日本に行きたい!」という希望にあふれたみなさんに、日々、日本語を教えています。日本語支援を必要とする人は、国内外問わずたくさんいるのです。

多言語学習センター iCoToBa



iCoToBa (あいことば) は、本学の学生が自由に使える外国語学習支援スペースです。グローバルキャンパスの中核となる、学びと交流のための「場」として作られました。iCoToBaでは、学生が中心となって、外国語や異文化に親しむためのイベントが開催されています。あなたもiCoToBaでグローバル・コミュニティの仲間に入りませんか。

iCoToBaでは、英語を中心として、ネイティブによる実践的な授業が行われています (English Conversation、Project Work English、English Presentation、English Discussion など)。英語以外の外国語についても、「留学前講座」「地域コミュニティ言語講座」として、ニーズに合わせた内容の授業が開かれています。さらに、TOEICを始めとする各種検定試験の対策講座も行われます。



iContact

外国人教員による予約制の個別&グループアドバイス時間を設定し、ライティングの添削や発音指導など、ニーズに応じた指導をしています。



iContact

グローバル・セミナー

ランチタイムに、県大の教員や外部識者から、様々な観点によるグローバルな話題について話が聞けるセミナーです (隔週水曜日に開催)。学部や専門性を超えて、カジュアルにディスカッションできる1回完結型の内容となっています。



グローバル・セミナー

留学報告会

毎週1回ランチタイムに、留学した先輩の経験談を聞く報告会です。



留学報告会

Self-Study Space

グループ学習や遠隔学習にも使えるパソコンを完備しています。e-Learningに取り組むこともできます。

留学生とのイベント

学生の自主的な企画によって、さまざまなイベントが運営されています。その要となっているのが、iCoToBa Supporters Club (ISC) です。仲間とともにイベントをつくり上げる経験は、貴重な学びにつながっています。



異文化交流 (ふるしき体験)

地域でのボランティア

地域のグローバル・イベントの情報紹介や、ボランティア募集なども行っています。国際学会での会場案内ボランティアなどで、実践的な力を身につけることができます。



地域ボランティア (伊勢志摩サミット)

さまざまなニーズにあわせて、魅力的なクラスを開講しています。

✓総合的な外国語能力をレベルアップしたい

✓留学前に社会や文化について知っておきたい

✓外国語でのプロジェクトワークにチャレンジしたい

✓地域の外国人住民との交流のために外国語を学びたい

✓語学検定に合格したい



iContact

このほか、
学生の自主的な
学習もサポート
しています

iCoToBa の 1 週間

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1			English Conversation		
2	English Conversation			Project Work English	English Conversation
Lunch	留学報告会 iContact (ポルトガル語)	iContact (ドイツ語)	グローバル・セミナー iContact (ポルトガル語)	iContact (フランス語)	iContact (中国語)
3	Project Work English	留学前講座 (ドイツ語)	留学前講座 (中国語)		iContact (スペイン語)
4	地域コミュニティ言語講座 (観光文化・中国語)	留学前講座 (フランス語)	English Presentation	English Discussion	English Discussion 地域コミュニティ言語講座 (医療スペイン語)
5	TOEIC				留学前講座 (スペイン語)

学部から大学院へ

本学の外国語学部を卒業し、さらに研究を深めることを志す学生は、大学院国際文化研究科に進学することができます。国際文化研究科は、外国語学部と日本文化学部を基礎とする大学院で、国際文化専攻と日本文化専攻から成り立っています。いずれの専攻も、修士論文の作成に取り組む博士前期課程と、さらに進んで博士論文の研究を行う博士後期課程の両方を有します。

国際文化専攻では、外国語によるコミュニケーション能力と、外国語で書かれた資料を扱う能力を十全に備え、国際社会および地域社会の諸問題に精確に対応できる人材を育てます。博士後期課程では、大学・研究所で教育研究に携わる教職員、官公庁・企業等で活躍する専門職業人など、国際社会の第一線で活躍できる人材の養成をめざしています。

大学院国際文化研究科に進学するには、秋季と春季の2回実施される大学院入試を受験する必要がありますが、国際文化専攻では、成績優秀者に対する学内推薦制度も設けています。

国際文化専攻の博士前期課程は、「言語研究」「文学文化研究」「国際社会研究」「地域社会研究」の4つの研究分野から構成されています。最終成果としては、学術の理論や体系の向上をめざす修士論文のほか、政策提案、教授法の開発、外国語資料の翻訳・解説など、学術の利用価値向上に重点を置く特定課題研究成果に取り組むことが可能です。

英語高度専門職業人コース

国際文化専攻内に置かれている英語高度専門職業人コース（2015年度開始）では、英語専修免許の取得に必要な授業科目をはじめ、学部で培った英語の言語知識や運営能力をプロフェッショナルとして活躍できる関にまで高め、洗練することのできる授業科目を配置しています。

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学との博士ダブルディグリー制度

本学は、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ大学との間で、博士論文の共同指導・審査に関する協定を結んでいます。希望する学生は、両大学から研究指導を受け（留学を含む）、博士論文の内容等に関する所定の要件を満たし合格すれば、両大学の学位認定を受けることができます。

通訳翻訳研究所は、理論的基盤研究と実践的応用研究を融合させた新しいコンセプトに基づく通訳翻訳の研究拠点として、2016年4月に開設された外国語学部附置の研究所です。多言語にわたる通訳翻訳の理論と実践を研究し、その成果を学内および愛知県下の行政、企業、各種団体に還元することを目的としています。そのために、外国語学部英米学科・国際関係学科のEICコースおよび中国学科の翻訳・通訳コース、大学院国際文化研究科の英語高度専門職業人コース、通訳翻訳研究所の三位一体で、通訳翻訳の研究・教育の充実と確かな基礎力をもった通訳者・翻訳者の輩出をはかります。

施設としては、外国語学部棟（E棟）1階に位置し、同時通訳放送システムをもつスタジオ、同時通訳ブース、編集室、教材作成室兼会議室を備えています。同時通訳の映像と音声は、学内すべての施設に配信することができます。



関連図——学部・大学院・研究所の三者関係イメージ（英語モデル）

外国語学部EICコース

Interpreting I, II
Presentation
Debate
翻訳技法
Comparative Studies
Communication Studies

大学院国際文化研究科 英語高度専門職業人コース

通訳研究・演習（英・日）
翻訳研究・演習（英・日）
国際コミュニケーション（基礎）（応用）
英語表現演習（オーラル）（リテラル）
英語学研究
英語教育学研究
英米文学文化研究
国際文化研究

Future Image

- ・ 通訳 Agent
- ・ 翻訳 Agent（一般企業、海外部門）
- ・ 英語教員（専修免許）
- ・ 海外大学院
- ・ 国内大学院（博士後期課程）
- ・ 外務省在外公館職員
- ・ 経産省外郭研究所
- ・ 国連職員
- ・ 海外 NGO/NPO

研究会・講演会・講座

学内外リソースの
海外発信

通訳翻訳研究所

愛知県には約25万人もの外国人住民が生活しており（2018年）、この数は東京に次いで全国2位です。東海4県（愛知、岐阜、三重、静岡）では、その数は約43万人となり、まさに「地域社会のグローバル化」が進んでいます。外国語を学び異文化を理解することは、こうした「地域社会における多文化の共生」に対応するためにも重要です。

多文化共生研究所では、外国語学部だけでなく、日本文化、教育福祉、情報科学、看護といった各学部の教員も加わり、①社会における様々な人々や文化の共生、②自然と人間の共生、③科学技術と人間の共生、などを含めた『成熟した共生社会』をめざし、様々な研究、教育、地域連携活動が行なわれています。

学生の皆さんが参加できる企画も多く、たとえば研究員（教員）によるミニ講演（ランチセミナー）、国内や海外からゲストを招いての講演会やシンポジウム、大学院生研究会、音楽や民族舞踊などの文化体験などは、自分の所属学科以外の分野にも視野を広げる機会となるでしょう。毎年『共生の文化研究』という雑誌を刊行しており、研究員の論文や実践報告だけでなく、大学院生が教員の指導を受けながら書いた論文や書評も掲載されています。



フランスからのゲスト講師を招いた公開講演会



「ペルー民族舞踊マリネラを踊ってみよう!」の
講義・実践会の風景



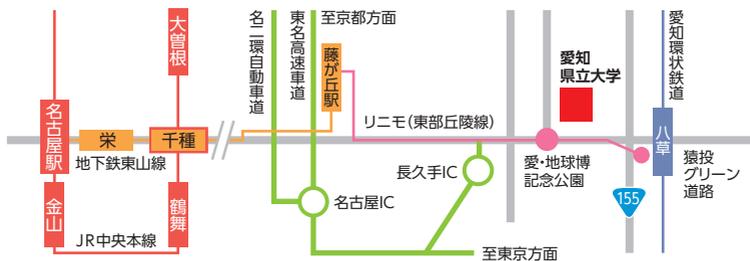
研究所の定期刊行物『共生の文化研究』



AICHI PREFECTURAL UNIVERSITY



新大学誕生10周年
長久手移転20周年



愛知県立大学
<http://www.aichi-pu.ac.jp>

〒480-1198 (個別郵便番号)

愛知県長久手市茨ヶ週間1522番3

愛知県立大学学務課外国語学部担当

TEL 0561-76-8824 (直通) FAX 0561-64-1105

2019年3月発行